

2011年九州の山(由布岳・開聞岳・祖母山) 山行報告書

期間 11年5月1日(日)~3日(火)

目的: 名山を登る

山名: 由布岳、開聞岳 メンバー: CL 竹内幹雄、塚本英吾、青山武

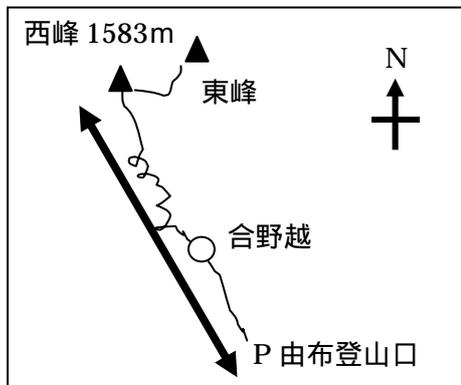
山名: 祖母山 メンバー: CL 竹内幹雄、塚本英吾、青山武、今崎勇(今崎さんと現地で合流して登る)

5月1日(日)曇りのちにわか雨

由布岳 (1583 m)

| | |
|------------------------------|---------------------------|
| 前夜 20:10(夜行バス)名古屋発~7:25 別府北浜 | 12:27 合野越展望所 |
| 8:00~レンタカーで移動 | 13:10 登山口 |
| 8:40 由布岳登山口 | 13:30 湯布院温泉により鹿児島まで車で移動開始 |
| 11:00 頂上(西峰) | 20:26 開聞岳麓のP到着 |
| 11:25 鞍部 | |

行動記録



前夜 19:00 刈谷に集合、名古屋から夜行バスで出発する。翌朝、別府北浜に到着、レンタカーで移動、別府から 20 分ほどで由布岳登山口に到着、準備完了して出発する。曇り空で山頂は隠れている。緩い傾斜が続く草原をゆっくりと登っていく。



由布岳登山口

やがて樹林帯の中に入りさらに進んでいくと合野越に到着、湯布院からの道との合流点である。ここから少し登ったところで一本取る。ここから先は樹林帯をジグザグに登っていく。途中で小雨が降り出してきたのでカッパを着ることにした。さらに進んでいくと今度は岩がゴロゴロとした急傾斜になっており、これを登りきるとマタエと呼ばれる西峰と東峰の鞍部に到着。ここは風速 20mほどの風がビュウビュウ吹いていて視界も悪い状態である。しかし、せっかくここまで登ってきたこともあり高いほうの西峰を目指してさらに登り始めることにした。鞍部を過ぎると風は弱まっており、あとは鎖を頼りに岩場を慎重に登っていく。20分ほどで頂上に到着、視界はないが道標をバックに写真を撮る。景色が見えないので早々に立ち去ることにした。そして下山は濡れた岩場を滑らないように慎重に下る。鞍部に戻ると東峰に登って行く登山者が何人かいた。我々は景色が楽しめないこともあり、東峰は登らずにこのまま登ってきた道を下山する。合野越展望所まで下ると、たくさんの登山者が休憩をしており賑やかである。この頃、雨も上がってきたので着ていた雨具を脱ぐことにした。そして、再び歩き出し樹林帯を抜けて草原を下っていると涼しい風が吹いており心地よい。登山口も目の前に見えてきた。ふと後ろを振り返ると登り始めには雲に隠れて見えなかった由布岳が、今はくっきりと見えている。ここから見る由布岳はなかなか良い。別名「豊後富士」と呼ばれるのがよくわかる。

下山後は、車で湯布院温泉に立ち寄り金鱗湖にある公衆浴場(下ん湯)で汗を流し、その後、今晚と明日の朝食をコンビニで仕入れながら明日登る鹿児島県の「開聞岳」麓に向けて大分自動車道、九州自動車道を車で移動、20:26 麓にある駐車場に到着する。



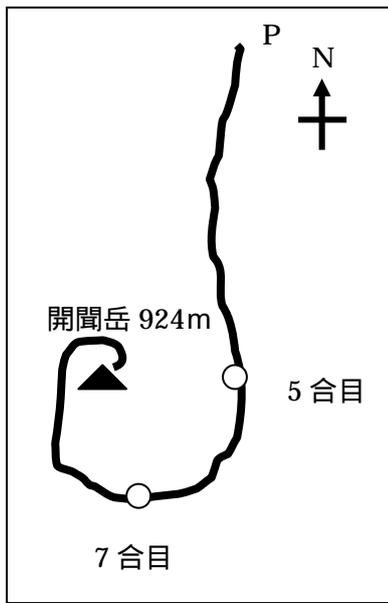
由布岳

5月2日(月)晴れ

開聞岳 (924 m)

| | |
|------------|-----------------------|
| 5:50 登山口 | 10:13 6合目 |
| 6:16 3合目 | 10:27 5合目 |
| 6:45 5合目 | 11:10 登山口 |
| 8:30 開聞岳頂上 | 12:00 大分県まで車で移動開始 |
| 9:00 下山開始 | 18:15 祖母山麓尾平青少年旅行村に到着 |

行動記録



前夜、開聞岳麓の駐車場に到着して仮眠、早朝 5:50 に登山口を出発する。駐車場は20台ほどの車が駐車しており登山準備している間に 3 パーティーほどが出発して行った。登山道は広く、樹木の中を歩くので日陰の中で歩きやすい。出発から1時間ほどで5合目に到着した。このあたりから足元は岩がゴロゴロとしておりその上を歩いていくことになる。そして7合目まで登るとようやく展望が開けてくるのだが今回は黄砂で展望はよくない。晴れているのだが青空を見ることができないのが残念だ。8合目を過ぎると視界が広がってくる。さらに進んでいくと大きな岩が現れこれを登ると開聞岳頂上に到着である。頂上はたくさんの登山者で賑わっている。行動食を食べながら、しばらく休憩して景色を楽しんだ後、下山を開始する。登山口に下りていくまでに登ってくる登山者と何人も出会い、登山口駐車場に戻ると駐車している車で満タン状態に近かった。開聞岳が人気の高い山であることを実感した。また、この麓では「開聞岳登山証明書」を発行してくれるということで下山後、管理棟に行き、山を登った記念に証明書の発行をしても

らいました。私がもらった証明書には「夕日に映える池田湖と開聞岳」の写真が載っている。開聞岳は「薩摩富士」とも呼ばれ、深田久弥が、

「これほど完璧な円錐形もなければ、全身を海中に乗り出した、これほど卓抜な構造もあるまい。名山としてあげるのに私は躊躇しない。」と評しているように見事な山である。今回、私は駐車場から見た開聞岳しか見ていないので機会があれば写真のような風景も見えたらいいなと思いました。

下山後、明日登る予定の祖母山、麓にある宿泊所「祖母山麓尾平青少年旅行村」へ車で移動開始。距離は 300km程で九州自動車道を走り松橋 IC から R218 を走り高千穂径由で尾平へと向かう。ここは 18 時までにはチェックインとなっているがその時間に遅れそうになり、途中で現地に連絡、結局 18:20 到着となった。すぐに夕食となり、その後で入浴、そして就寝する。この泊り客はほとんどが登山者の方々でした。



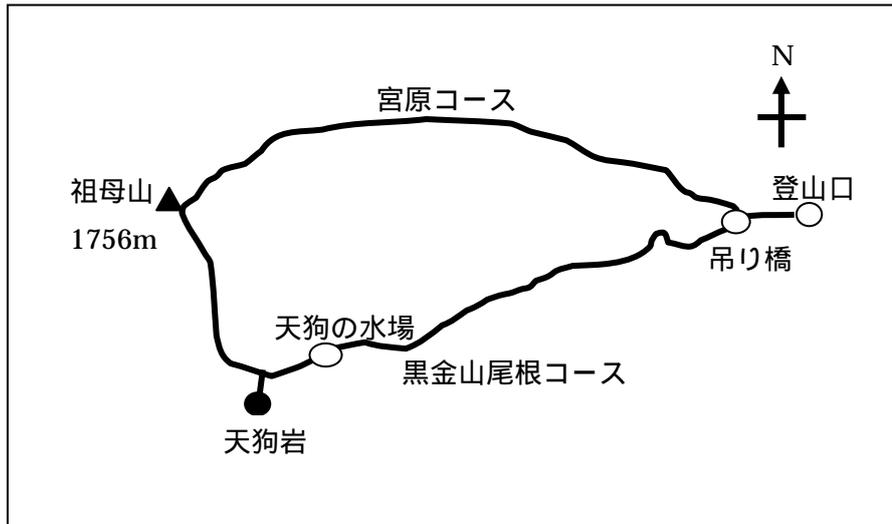
駐車場からの開聞岳

5月3日(火)曇りのち小雨

祖母山 (1756 m)

| | |
|--------------------|--|
| 6:00 登山口(黒金山尾根コース) | 11:30 祖母山(1756m) |
| 6:40 黒金山尾根出合 | 12:39 1500m(宮原コース) |
| 7:48 1000m | 13:20 1200m |
| 9:00 天狗の水場 | 14:02 900m |
| 9:50 天狗岩(1650m) | 14:50 登山口 |
| 10:11 分岐 | 18:30 別府 20:25(夜行バス)別府北浜発～翌朝 7:40 名古屋着 |

行動記録



アケボノツツジ



新緑の景色

6

早朝、5時に起きて登山準備をする。山岳部 OB 会員で福岡在住の今崎さんと、時に合流して祖母山に登る予定をしていた。ところが周りの登山者が次々と出発を始めたので我々も合流場所に早めに移動をすることにした。5分ほどで登山口手前の駐車場に到着、塚本さんが大きな声で今崎さんの名前を呼ぶと、すぐ近くで今崎さんが手を振っているのを確認、久々の再会を喜び、挨拶を交わした後、出発をする。コースは宿の親父さんが登りは傾斜のきつい黒金山尾根を使って、下山は疲れた状態でも歩きやすい宮原コースにしたほうが良いと助言をしてくれたので、その通りに宮原分岐から黒金山尾根コースに登ることにした。分岐を過ぎると吊り橋がありそれを渡り終えると



前方に祖母山

すぐに鉄パイプ製の橋が現れる。そこを過ぎるとまもなく尾根に取り付きそのまま樹林帯の中を登っていく。今崎さんに花の名前を教えてもらいながら写真を撮りながら歩いていく。所々で黄色のマンサク、ピンク色のアケボノツツジが咲いていてきれい。今年は花が咲くのがちょっと遅いそうだ。途中、天狗の水場に立ち寄り水を一口飲む「この一口がおいしい」。そして、この先の天狗岩までは竹やぶの中を進む。

天狗の肩(分岐)まで登ると視界も開けてきて祖母山が近くに見える。ここで天狗岩をピストンする。天狗岩からの景色は絶景で祖母山もよく見える。そして分岐に戻り祖母山に向かう。やがて急な崖が現れだした。ここから先はハンゴ、ロープを伝いながら慎重に登っていくとまもなく頂上に到着である。頂上では、「開山祭」を行っていた為、たくさんの方が集まっていた。山岳救助関係の人もたくさん見えており、登ってくる登山者にバンダナを配っていて我々も頂戴しました。「この日しかもらえない」という意味で「貴重な記念品」です。頂上付近はあまりのたくさんの方がいたので早々に下山を開始することにした。宮原コースをゆっくりと下りていくと、途中で小雨が降りだしてきた。さっそく雨具を着て濡れないようにする。雨で足元が滑りやすくなっているので急な傾斜では慎重に注意しながら進む。笹原の景色からやがてブナやミズナラの広葉樹に変わりさらにツガ、モミとなり登山口が近くなってきた感じがしてきた。さらに進んで、その先に吊り橋が見えてきた。これを渡ると朝の登りで見た景色である。そして、しばらく歩いて登山口に到着、握手を交わして無事の下山に感謝する。

「昔、日本アルプスの父ウェストンが日本にきて、まず登ったのは富士山について、当時九州第一とされた祖母山だった。」という話を、この山に登ろうとして始めて知りました。下山後、今崎さんは福岡の家に、我々は名古屋に帰るので、またの再会を願い、ここで別れることとなった。そして宿に駐車している車に乗り込み今崎さんに見送られて別府へと向かう。別府に到着後、温泉浴場に入り汗を流した後、夕食を済ませ 20:25 発の夜行バスに乗って翌朝 7:40 名古屋に到着、JR で刈谷へと帰り、山行を終える。



最後の吊り橋